



多摩支部会報

予選会特集号

平成28年10月18日 発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

広報委 飯田光宏



西山支部長予想わずか11秒差の第2位で箱根駅伝出場を確保

10月15日、澄み切った青空のもと「第93回箱根駅伝競走予選会」が50校589人の選手が参加し、上位10校の出場枠を目指して激戦が行われた。多摩支部からは43名の校友が馳せ参じ、声をからして応援した。

エース坂口裕之選手を欠くも大東文化大学に10秒差の2位で、総合力をみせつけた。



写真 読売新聞オンライン



単独走で期待の走りの藪下選手 (明大スポーツ)



下表・読売新聞オンライン

総合順位	選手名	学年	タイム	順位	大学名	タイム
21	江頭賢太郎	4	1 時間00分22秒	1	大東文化	10:08:07
25	藪下 響太	4	1 時間00分26秒	2	明 治	10:08:17
35	阿部 弘輝	1	1 時間00分38秒	3	創 価	10:10:09
37	末次 慶太	3	1 時間00分41秒	4	法 政	10:10:18
38	的場雄太郎	4	1 時間00分41秒	5	神奈川	10:11:47
43	中島 大就	1	1 時間00分46秒	6	上 武	10:12:12
47	磯口 晋平	3	1 時間00分53秒	7	拓 殖	10:12:36
69	三輪 軌道	1	1 時間01分13秒	8	国学院	10:14:09
74	吉田 楓	4	1 時間01分17秒	9	国士館	10:14:45
75	皆浦 巧	3	1 時間01分20秒	10	日 本	10:16:17





8年ぶりの予選会「もう戻らない」…明治大 8年ぶりの予選会に駆けつけた明大のOBたち

読売新聞オンラインより



明治大は今年1月の本大会で総合14位に終わり、8年ぶりに予選会に出場。会場には、多摩地区などのOB・OGや保護者たちが駆けつけた。ただ、東京・立川での応援は久しぶりで、慣れていないためか、他校と比べると出足が遅めの様子。この日は、六大学野球の対早大戦と重なったこともあり、「本当は神宮球場に行くはずだった。できれば来たくなかったね(笑)」とボヤクOBもいた。

ただ、学生たちへの期待は高く、立川市に隣接する福生市に前夜泊まってから駆けつけた人もいた。同大校友会の西山強・東京都多摩支部長(78)は「予選は大丈夫。たぶんトップで通過してくれますよ」と笑顔を見せる。スタート時間が近づくにつれ、応援の人数が増えてきて、号砲が鳴った後は、おなじみの紫色ののぼりを掲げて、大きな声援を送っていた。

明大は今回、前年の主力選手たちが卒業したため、1万メートルを28分台で走る選手はいなかった。だが、今年1月の本大会の5区で苦杯をなめた藪下響大選手(4年)や、江頭賢太郎選手(4年)ら7人が、20キロを1時間0分台で走り、チームの総合力で予選を2位で通過した。

結果発表の後、西弘美・駅伝監督が「本大会では上位を目指す。(来年は)もうここへは戻ってきません」と決意を表明。射場雄太郎主将(4年)も「全日本駅伝や箱根の本大会に向けて弾みになった」などと誓っていた。

選手たちがそろってガッツポーズした際、射場主将が思わず「予選頑張るぞ!」と言ってしまい、集まったOBたちの苦笑を誘う場面もあったが、予選突破のノルマを果たした安堵感からか、なごやかな雰囲気にも包まれていた。西山さんも「今回は、明大の『人の和』の力、『前へ進む』という精神のおかげで突破できたと思う。本大会では、もっと前へ進んでほしい」と期待していた。



**観戦記：江面利和(日野)
向井 淳(町田)**

8年ぶりに箱根駅伝予選会に行ってきました。

朝は肌寒かったのですが、一転スタートからは日差しが照りつける暑さとなりました。

大勢の声援の中、母校明治は序盤から全員上位につけ安心して応援することができました。

終わってみれば1位の大東文化大に10秒差の2位、見事の走りでした。本選での活躍が期待されます。こちらがんばって応援します。

終了後の祝勝会かつ本選に向けての必勝会には選手、監督も参加していただき、大いに盛り上がりました。

以下、試合後の西監督コメント(明大スポーツ新聞より)



「これでようやくという感じ。課題もありましたけど、そういった課題をつぶして二カ月半後の本戦でしっかり 上位争いができたらいいなと思います。(久しぶりの予選会だが)8年ぶりということで(選手の)誰もが経験していませんから、そんな中で落ち着いてレースしてくれました。もうこれ一本にかけてきましたから。予選会は何が起こるか分からないですから、選手たちもよくやってくれた。12人全員がよく走った。(中略)去年 おととしとエースがいてエースに頼っていただきました。今年はエースのいない、久しぶりのチームだから、こういった台所事情の場合は総合力で戦ってくしかないです。1人のブレーキで大きく足を引っ張ってしまうので、これから本戦はどういった戦い方をしていくのか、それが課題です」



編集後書 第93回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会が、陸上自衛隊立川駐屯地をスタートし、市街地を経て、国営昭和記念公園内をゴールとする20キロのコースで開催された。各チーム12人まで走り、上位10人の合計タイムで競った。母校明治は大東文化大学に次ぐ2位となり、9年連続59回目の箱根駅伝のキップを手にした。あの伝統校「中央大学」は、1925年(大正14年)第6回大会以来の連続出場(87回連続)がならず、44秒差で涙を飲んだ。まさに秒単位の熾烈な戦いであった。個人成績ベスト10中、外国人留学生が5人と目立った気がする。各選手、健康に留意され、ベストの体調で本番に臨んで欲しいものである。

選手並びに大会関係者及び応援の皆さま、お疲れ様でした。(写真:江面氏、向井氏、若村氏) 広報委員会